

平成26年度 第12回臨時国際資源学部執行部会議議事要旨

日 時：平成26年9月1日（月）13：30～14：52

場 所：インフォメーションセンター多目的ホール

出席者：佐藤学部長（議長）、宮本、安達、今井、柴山各委員

欠席者：藤井委員

議 事

1. 今後の人事案件について

学部長から資料1により説明があり、了承された。

なお、本件と次の案件については、各カウンスルでの審議が必要となることから、開催に向けて日程調整していたところであるが、定足数を満たす日時がないため、メール会議で行いたい旨提案があり了承された。メール会議は各カウンスル委員へ直接説明をした後、行うこととなった。

2. 大学院国際資源学研究科（仮称）の設置について

学部長から資料2により説明があり、意見がある場合は木曜日まで連絡することとなった。

3. SGH（グローバルリーダーの素養育成のための探求活動）構想について

大川事務長から資料3により説明があり、受託することで了承された。詳細は今後詰めていくこととなった。

4. その他

1) 学部長からトリサクティ大学内に共同実験室を整備する方向で調整している旨報告があった。また、本学部とインドネシア国営石油、トリサクティ大学の3者による連携協定に向けて検討中である旨報告があった。

2) 学部長から9/18, 19に全地連のフォーラムが秋田キャッスルホテルで開催されることに伴い10名分の招待券が届いたため、興味のある方は資源地球科学コースまで連絡されたい旨報告があった。

3) 今井委員から、高知大学海洋コアセンターとの連携協定について、11月頃に締結する方向で準備している旨報告があった。

4) 今井委員から、世界資源系フォーラムを来年秋田大学で開催してはどうかとの提案がフライベルク大学からあった旨報告があり、もう少し内容を調査し検討することとなった。

5) 安達委員から、席上配付資料に基づきビツウオータ大学との協定締結に向けて説明があり、次回執行部会議にて審議していただきたい旨依頼があった。

6) 柴山委員から、モンゴル科学技術大学とは大学間協定を締結しているが、今後の海外資源フィールドワークの円滑な運営に向けて、学部間レベルでの協定はできないかとの意見があった。

以 上